



担当者 石丸紀興

1966年（昭和41）4月
～2003年（平成15）3月
広島大学工学部建築学科
2003年（平成15）4月～2011年（平成23）3月
広島国際大学工学部
2011年（平成23）6月1日～
（株）広島諸事・地域再生研究所
代表・研究員



平和文化研究所講演会

都市の記憶Ⅷ
被爆建造物の保存
～広島の事例、長崎との比較

広島諸事・地域再生研究所
石丸紀興
オンライン講演会
2021年2月23日（火・休）

17年間 千田町3丁目
20年間 東広島西条
8年間 呉市広町

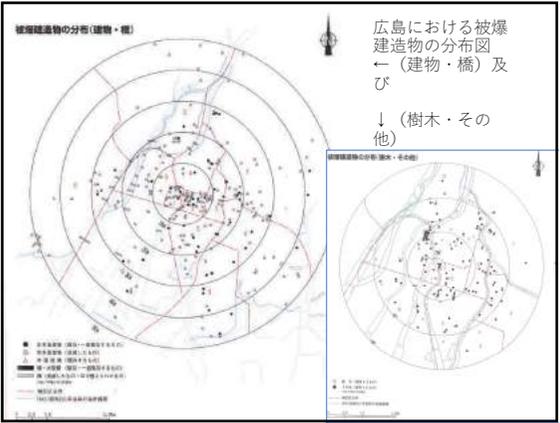
1966年（昭和41）4月 広島都市調査、都市総合計画、地区計画に関わる
1968～9年（昭和43～44年） 広島大学で大学紛争
全国的にも大学紛争、大学の果たしている役割、都市計画のあり方、特に住民をどうとらえるか浮上
1971～2年（昭和46～47） 広島市周辺部整備基本計画を住民参加方式で推進、広島市との関係激変
1978年（昭和53）より広島復興計画史の調査開始
1989年（平成1）より被爆建造物の本格的調査研究



すなわち長崎では建造物として

- 45か所の建築物に対して58か所の工作物・橋梁が現存しており、被爆遺跡という観念が強く存在している
- 浜口町火の見櫓、浜口町電停石垣、浦上天主堂石垣、浦上天主堂鐘楼、鎮西公園石碑、常清高等実践女学校赤レンガ塀、長崎医科大学門柱、ペアトス様の墓、山里国民学校防空壕、瓊浦中学校貯水タンク、山王神社二の鳥居、東家の墓地、田川家の墓地、三菱兵器大橋工場標柱、淵神社鳥居・石灯籠、住吉神社鳥居・狛犬、弁財神社鳥居、金刀比羅神社鳥居、三菱兵器住吉トンネル工場、等々
- 特に 鳥居10件、石垣3件、門柱3件、橋梁19件

少しでも被爆の痕跡が残っている構造物に着目して調査対象（保存対象？）としている

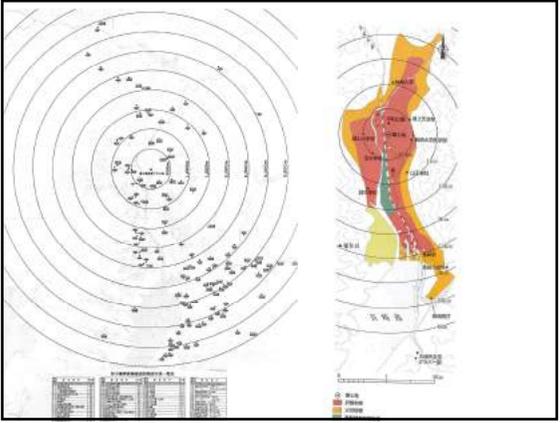


長崎の被災

長崎では南北方向に対象物が集中し、かつ3km圏から4.5km圏において南東方向に集中しているのである。すなわち、長崎の旧市街地は、焼失を免れていて、重大な被災地域ではなかったのである。これが広島と決定的な差である。距離的には、重大な被災地域でなかったとはいえ、プルトニウム原子爆弾の威力はなみはずれたものであり、全壊全焼約13000戸、大破半焼込みで18000戸、被災者約120000人に達した

広島における被爆建造物の分布

- セクターによってやや違いがあるが、概して爆心地に近ところから集中して分布しており、当時の建造物分布がそのまま被爆建造物にはねい押ししていると思われる。すなわち、リトルボーイ搭載のエノラゲイ号は、最も効果的な位置に原爆を投下したとすることができる。爆心地を中心として半径500m、1km、2km、3kmと最も激烈な熱線、爆風、放射線を浴びせて、破壊壊滅、粉碎、吹き飛ばしができるように対応している



被爆建造物・被爆建物とは何か

ここでは被爆建物に絞る

被爆建造物の考察



1949年 広島平和記念都市建設法 制定
 1949年 長崎国際文化都市建設法 制定
 第一条 この法律は、国際文化の向上を図り、恒久平和の理想を達成するため、長崎市を国際文化都市として建設することを目的とする。

③) 保存・継承を考える基本の観点
 ア 広島・長崎の世界史における意義は、「および互の口で述べたように、被爆復興を表現しようとする理想を象徴する都市となったことである。広島・長崎をはじめ日本が復興をはかるとして中絶できなかったのは、この歴史史的意義の証であると考えられる。
 イ この意義の具体化において、目に見える被爆建造物の保存は、記録の作成・保存とともに特別に重要な意味をもつ。被爆建造物が実現するまで、この努力は、国から民間に至るまで各界において継続される必要がある。
 ウ 一方、被爆建造物の保存は、所有者の理解と協力がなくては不可能である。したがって個々の被爆建造物を国営、県営、市営、民営に分類するとともに（別紙「別表」）、それらに関する考え方や意見は以下のように整理した。

項目	広島市	長崎市
被爆面積 (建設法制定時)	約 400 万平方メートル	約 117 万平方メートル
被爆人口	約 25 万人	約 10 万人
被爆建物数	約 130 万棟	約 86 万棟
被爆建物数/人口	約 5.2 棟/100 人	約 8.6 棟/100 人
被爆建物数/面積	約 0.33 棟/100 平方メートル	約 0.75 棟/100 平方メートル

項目	長崎	広島
被爆の経緯	アメリカ軍による空襲	アメリカ軍による空襲
被爆の被害	約 10 万人	約 25 万人
被爆の被害	約 10 万人	約 25 万人
被爆の被害	約 10 万人	約 25 万人
被爆の被害	約 10 万人	約 25 万人

各種比較・考察

広島
 TNT2万t
 1320ha
 6万7860戸
 400万坪

86件

86件/1320ha
 110万人

被爆建物の意味、

- 被爆したことをその場所と建物で現実として示す、物語る
- そのことによって被害の実態や核の問題への理解や行動へ発想へつなぎ、深化させる
- 被爆者が語っていたことを、被爆者が次第に姿を消している中で、継承していくことのできる方法である
- 建物を生かしてさらに使用していくことは、建物の命を長期に永らえることで、さらに新たな役割を担うことにつながる（歴史的な建物の保存と同様）

被爆建物リスト	名称	所在地	種類	備考
1	広島市立中央図書館	広島市東区	図書館	1945年8月9日空襲で焼失
2	広島市立中央図書館	広島市東区	図書館	1945年8月9日空襲で焼失
3	広島市立中央図書館	広島市東区	図書館	1945年8月9日空襲で焼失
4	広島市立中央図書館	広島市東区	図書館	1945年8月9日空襲で焼失
5	広島市立中央図書館	広島市東区	図書館	1945年8月9日空襲で焼失
6	広島市立中央図書館	広島市東区	図書館	1945年8月9日空襲で焼失
7	広島市立中央図書館	広島市東区	図書館	1945年8月9日空襲で焼失
8	広島市立中央図書館	広島市東区	図書館	1945年8月9日空襲で焼失
9	広島市立中央図書館	広島市東区	図書館	1945年8月9日空襲で焼失
10	広島市立中央図書館	広島市東区	図書館	1945年8月9日空襲で焼失

被爆建物リスト - 広島市公式ホームページ (hiroshima.lg.jp)

各種比較・考察

広島

157件
 86件 (29件)
 48件 (10件)
 2件 (2件)
 21件 (不明)
 不明

86件
 30件
 56件

保存することの難しさ、問題点もある

- 建物には寿命があり、それを永らうさせることは、建物構造上にも難しい面があり、経費的にも負荷がかかることである
- 建物の用途や設備面でも次第に難点が出てくることもあり、通常は建て替えて解決していることができないとなると所有者の不満を増幅させる
- さらに改修・保存再生事業となると大きな費用がかさみ、建物所有者にとって極めて大きな負担となり、容易に理解が得られない
- 一方、困難な中で、驚くような改修・保存再生がなされると、驚きや感嘆、称賛をもって迎えられ、人気になることもある（九州では門司区に集中して存在する）

広島大グループの調査による一覧表

施設名	被爆後の名称	所在地
小田原小学校	山陽国国民学校	中区中田町1-1
大田小学校	山陽国国民学校	中区山田町1-5-39
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町6-36
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町7-26
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町8-14
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町9-12
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町10-10
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町11-9
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町12-8
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町13-114
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町14-9
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町15-16
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町16-3
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町17-4-60
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町18-1
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町19-11
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町20-6-20
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町21-23
山陽国国民学校	山陽国国民学校	中区山田町22-1-40-1
山陽国国民学校	山陽国国民学校	南区宇部海岸3-11

1989年時点で作成したリスト

被爆建物の保存を巡る事態の変化

- 様々な事例と様々な考え方があがる
- 当初は意識的な保存の事例が少なく、提案すればそれなりのインパクトがあり、説得力があった
- しかしその内、なにもかも保存の対象として訴えることで、目あたりしさが無くなり、ともすれば飽きられる
- しかし一方で次第に被爆建物が解体され少なくなっていくことで、危機感も高まる
- 被爆者が少なくなることになっていくことから被爆建物の存在価値が高まるという側面もあった
- 被爆建物の保存関係費が高騰してきて、保存工事が敬遠されるという側面もでてきた

被爆建物の分類

- 被爆後、そのまま残存している建物
- 被爆後、解体された建物
- 被爆後、解体された建物で、その跡地に新しい建物が建てられた建物
- 被爆後、解体された建物で、その跡地に新しい建物が建てられなかった建物
- 被爆後、解体された建物で、その跡地に新しい建物が建てられなかった建物
- 被爆後、解体された建物で、その跡地に新しい建物が建てられなかった建物

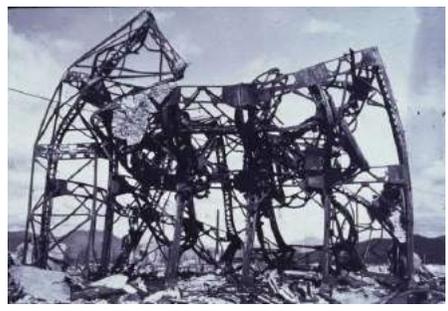


- 1990年 8月 広島市が市内に「被爆建物等継承方策検討会議」
- 1991年 8月 「被爆建物等継承方策検討委員会」立ち上げ
- 1992年 8月 報告書作成、要綱による保存継承方策を答申
- 1993年 5月 「広島市被爆建物等保存継承事業実施要綱」の制定

The Damage of Reinforced Concrete Buildings in 1945



The Damage of a Steel-frame Building, Warehouse of Odamasa in October, 1945



The Damage of a Reinforced Concrete Building, Teikoku Bank in October, 1945



増田清設計：大正屋呉服店

1-2
燃料会館 竣工時：大正屋呉服店
現：広島市イノクス

爆心からの距離 170m
所在地(旧町名) 中区(高野) 番7号(中島車庫)
竣工時期 1929年(昭和4年) 5月
構造/階数 鉄筋コンクリート造/3階建+地下1階
建築家/施工者 増田清/清水組

被爆時 燃料会館
現在 広島市イノクス
爆心地から距離 170m
竣工 1929年3月
鉄筋コンクリート造3FB
1
増田清/清水組



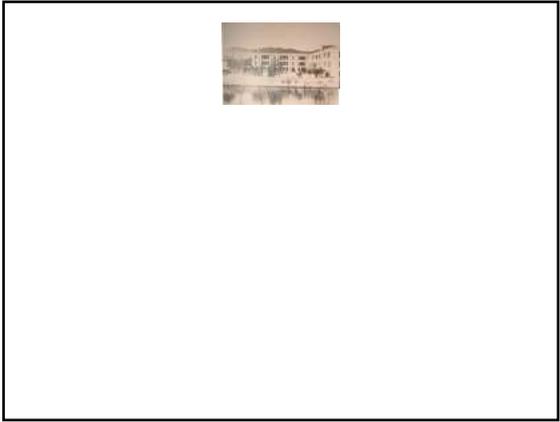


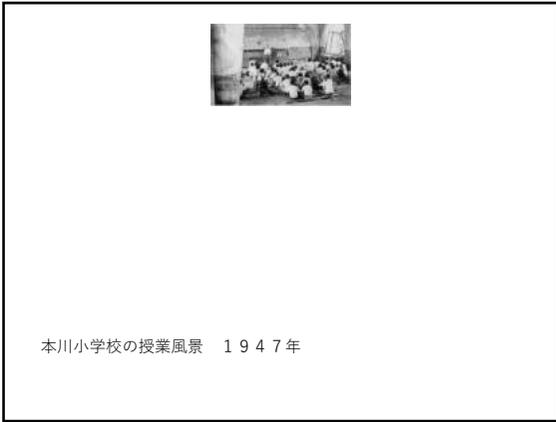
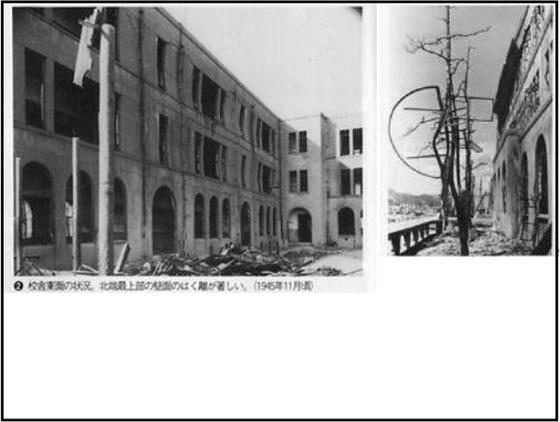
本川小学校の情報

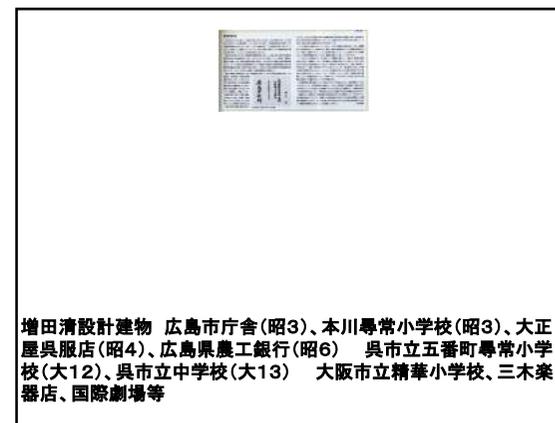
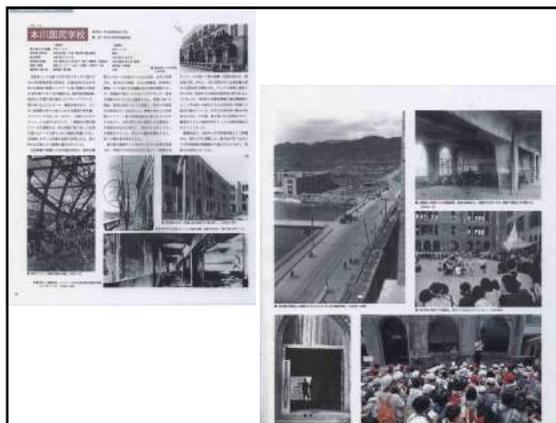
本川国民学校

竣工時：本川尋常高等小学校
現在：本川小学校平和資料館

[校舎]	[講堂]
<p>爆心地からの距離 410メートル</p> <p>所在地(旧町名) 中区本川町一丁目5番39号(鍛冶屋町)</p> <p>竣工時期 1928(昭3)年7月</p> <p>解体等の時期 1987(昭62)年6月(地下1階・1階部分一部現存)</p> <p>構造/階数 鉄筋コンクリート造/3階建・一部地下1階</p> <p>設計者/施工者 増田清/清水組</p>	<p>420メートル</p> <p>同左</p> <p>1933(昭8)年5月</p> <p>1945(昭20)年8月(壊滅)</p> <p>鉄骨造/平屋建</p> <p>不詳</p>



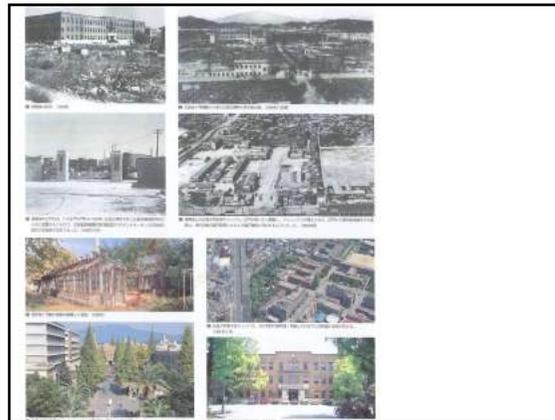




増田清

日本勧業銀行広島支店

This page features a collection of architectural drawings, including floor plans and elevations, alongside historical black and white photographs of the building. The text provides a detailed history of the building, its architectural significance, and its role in the city's development.



広島文理科大学 (中国地方総監府)

広島文理科大学 (中国地方総監府)

This page contains architectural drawings, including floor plans and elevations, along with photographs of the building. The text describes the university's history, its architectural design, and its contribution to the region.



国際平和都市ひろしまの「知の拠点」として、まも全体で知の育成・交流を図る「森」を創出します。

国際平和都市ひろしまの「知の拠点」として、まも全体で知の育成・交流を図る「森」を創出します。

建築事務所	建築名称	所在地	建築年	建築主
ナレッジフォレスト	ナレッジフォレスト	広島市南区	2018年	広島市

This page features architectural drawings, including floor plans and elevations, along with photographs of the building. The text describes the building's role as a knowledge hub and its contribution to the city's development.

旧理学部1号館再生利用の 様々な構想・考え方

- 自然史博物館（仮称）
- 折りヅル保存展示館（仮称）
- 修学旅行生宿泊研修センター（仮称）
- 広島市博物館 比治山での計画の代替として
- 広島文学資料館
- 戦時中の外国人留学生の記録・追悼の施設
- 等々
- 広島大学としての構想あり それは旧理学部1号館を取り壊して新築する構想

被爆建物の存在はどのような意味を發する か

- 被爆した事実・記憶をどう伝えるか
- 被爆の実相をどう伝えるか
- 存在することによって多くのことが伝えられる
- どのような解釈も許容することもできる
- 歴史的な建物を再生利用すること、長期的に利用することの意味は大きい(ヨーロッパはその本拠地)

被爆建物保存は簡単ではない

- 所有者の問題
- 耐震性の問題
- 費用の問題
- どのような機能を果たすべきか